

平成30年6月7日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

認定NPO法人 IVY

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名: 総合的な学習の時間における「国際理解」での講演

企画実施概要: ①実施内容
はじめにODA事業概要及び日本が国際協力する意義について説明し、次にシリア難民の現状と課題を生徒と共に考え、最後に弊団体が実施しているシリア難民・イラク国内避難民支援(N連、JPF事業)の事業背景、事業内容について説明を行った。

②対象者および参加人数
高校2学年30名 及び 保護者 10名(授業参観のため)

2 出張者氏名 小笠原 直子

3 依頼元／主催団体名 聖ウルスラ英智高等学校

4 実施予定日時 平成30年4月28日 (土) 8:30 ~ 9:20

5 実施場所 聖ウルスラ英智高等学校(住所:宮城県仙台市)

6 実施報告
〈生徒のアンケート結果から〉
・自分達の税金がODA事業に活用されていることを知り、知らず知らずのうちに国際協力に貢献できていることに驚きと嬉しさを感じた。
・震災の時に多くの国が支援してくれたことが、これまで日本が行ってきた支援とつながっていたことを知り、また国際協力を通じて恩返ししていきたいと感じた。
・難民の状況を知り、物資支援だけでなく教育支援が大切だと思った。
〈所感〉
生徒はODAやNGOの言葉は学んでいるものの、これまで国際協力の目的や意義、具体的な活動について聞く機会がなく、今回初めてNGOから話を聞き、東北で国際協力をしている団体があることに驚いた様子だった。生徒からは今後は世界情勢に関心をもって情報を見聞きするようにしたい、自分達にできる国際協力活動(寄付など)を行いたいなど、本講演を通じて国際協力に対し理解を深めることができた。また、依頼者である元青年海外協力隊の教員から、受験を控えた生徒に視野を広げてもらう良い機会となったと感想があった。

7 写真



NGO相談員についての説明



高校生がシリア難民キャンプの写真を見てフォトランゲージを行った。(当日、保護者の参観あり)

(写真2)

以上

平成30年5月9日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
名古屋NGOセンター

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 愛知県中央メーデー & 2018名古屋地協メーデーフェスティバル
企画実施概要： ①実施内容：会場内にブース出展し、社会的課題解決に向けたNGO活動を広く紹介した。
(簡潔に記載ください)

②対象者および参加人数：来場者約3,000人(家族連れ、学生、社会人、退職者など)。名古屋NGOセンターの相談コーナーへの来場者は約30名。

2 出張者氏名 堀川絵美

3 依頼元／主催団体名 第89回 愛知県中央メーデー実行委員会

4 実施予定日時 平成30年4月21日 (土) 9:40 ~ 13:00

5 実施場所 愛知県名古屋市中区栄3丁目16-10, 久屋大通公園

6 実施報告 幅広い年齢層を対象に、活動紹介と相談を行った。

主な相談内容は、以下の通り。
「寄付の方法にはどのようなものがあるか」
「スタディツアーについて知りたい」
「団体の具体的な活動を知りたい」

7 写真(カラーで2枚程度添付のこと)



会場の様子。大勢の来場者でにぎわう。



来場者対応の様子。パンフレットで団体の活動紹介を行う。

(写真1)

(写真2)

以上

平成30年5月9日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

認定非営利活動法人
名古屋NGOセンター

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 探求学習ガイダンス②
～SDGs達成に向けたNGOの活動と私にできること～

企画実施概要： ①実施内容：
(簡潔に記載ください) 長野県松本県ヶ丘高等学校が通年で探求学習に取り組んでいる。
生徒一人ひとりがテーマを決めて、決めたテーマを探究して深めるもの。そこでテーマを決める際の情報提供としてSDGs、NGOの活動を
②対象者および参加人数：
一年生320名

2 出張者氏名 戸村 京子

3 依頼元／主催団体名 長野松本県ヶ丘高等学校

4 実施予定日時 平成30年4月27日 (金) 9:30～10:30

5 実施場所 会場名(住所:長野県松本市)

6 実施報告 松本市という地域性から、あまりNGOの活動やSDGsについて知られていなかったが、生徒や先生から次のような感想を聞くことができた。
・SDGsについて知らなかったが、「No one leave behind」という言葉が印象に残った。
・NGOの国際協力活動の一端に触れ、高校一年生が自分の探究するテーマや進路選びの時の参考になった。
・この地域で普段聞くことのできないNGOの具体的な活動、目指すものを知る機会となった。

7 写真(カラーで2枚程度添付のこと)



SDGsについて説明する。



生徒の代表からお礼の言葉がありました。

(写真1)

(写真2)

以上

平成30年6月7日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
関西NGO協議会

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名：『和歌山県立星林高等学校新1年生研修合宿』での国際協力/SDGsに関する講演及びワークショップの実施

企画実施概要：①様々な国の文化や価値観、グローバル課題を学びながら、日本のODAやNGOが果たしてきた役割について講演し、ワークショップを交えながら説明する。
②合計56名（1年生の国際交流科生徒（40名）、普通科生徒（希望者4名）・教員数名合計12名）

2 出張者氏名 高橋美和子

3 依頼元／主催団体名 和歌山県立星林高等学校

4 実施予定日時 平成30年4月20日（金） 9:00～12:00

5 実施場所 紀三井寺ガーデンホテル はやし（和歌山県和歌山市673）

6 実施報告
・参加した高校生が積極的にワークショップに参加し、最後は熱心な生徒から将来の国際協力分野でのキャリアや、世界から見た日本の国際協力の評価など、多くの質問が寄せられた。
・オブザーバー参加した校長先生より、SDGsや国際協力が高校生が自分たちの問題として考えるきっかけとなった、また、日本のODAが人道支援の現場でどのように生かされているのか理解したという感想で
・国際課の担当教員より、国際化の授業の一環として、和歌山から大阪で開催するワンフェスforYouthに参加したいという相談であった。しかし、地方の高校生にとって、交通費の負担が大きいことが課題である。

7 写真



講演安堵ワークショップ終了後に参加生徒と一緒に記念撮影

（写真1）



SDGsゴール4:識字率の低い地域にわかれ、教育費の配分とジェンダー格差を考えるワークショップの風景

（写真2）

以上

平成30年6月7日

外務省国際協力局民間援助連携室

公益財団法人PHD協会

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名:

企画実施概要:

①実施内容

(簡潔に記載ください) NGO相談員としてNGOにおける働き方の実態と課題、今後の見通しについて統計数字を使いながら講義を実施。後半は「NGOでの働き方改革」をテーマにグループディスカッションを実施し、理解を深めた。

②対象者および参加人数

甲南女子大学多文化コミュニケーション学科3年生、4年生16名

2 出張者氏名

坂西 卓郎

3 依頼元／主催団体名

甲南女子大学

4 実施予定日時

平成30年4月26日 (木) 13:00 ~ 14:30

5 実施場所

甲南女子大学(兵庫県神戸市東灘区森北町6-2-23)

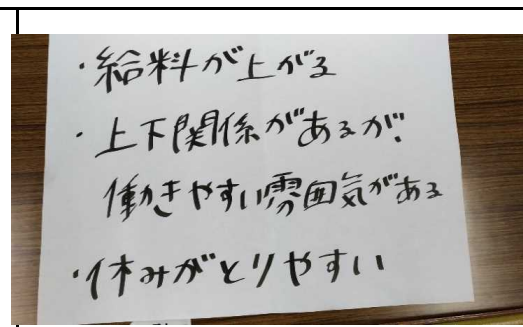
6 実施報告

NGOデータブック2011、博報堂生活総合研究所の調査結果等を用いてNGOの職場環境や国際意識についてレクチャーを実施した。

参加者の感想①: NGO・NPOで実際に働いている坂西さんがポジティブなところだけでなく、しっかりと隠さずネガティブなところまでお話しして下さったので、すごく勉強になりました。残業とかもあるけど、やっぱりNGO・NPOはやりがいが一番得られる仕事なんだと気づかされました。それと少しずつ変わってきているということも分かって良かったです。

参加者の感想②: 今までNGO・NPOはこんなことをしていますよ。海外で村の手伝いをしていたり、日本でサポートしていたりとどのようなことをしているのかを聞く機会は多くありましたが、今回の裏側のお話を聞くのは初めてでとても驚きました。

7 写真(カラーで2枚程度添付のこと)

	
(キャプション) NGO相談員制度及び外務省との連携について説明しているところ	(キャプション) 学生のグループディスカッションの結果。NGOで働く条件を考えてもらったもの

(写真1)

(写真2)

以上

平成30年4月19日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
ピースウィンズ・ジャパン

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： JICAボランティア説明会（山口県）への参加

企画実施概要： ①実施内容
国際協力に関わる仕事やNGO活動について講話形式で紹介し
（簡潔に記載くださ 国際協力活動について個別相談に乗る。

②対象者および参加人数
JICAボランティアや国際協力に興味を持つ参加者（20～39歳）5名

2 出張者氏名 石田 祐子

3 依頼元／主催団体 独立行政法人 国際協力機構 中国国際センター

4 実施予定日時 平成30年4月15日（日） 14:00～16:30

5 実施場所 山口県健康づくりセンター（山口県山口市吉敷下東3丁目1-1）

6 実施報告

・説明会を通じ、参加者は概ね熱心に話を聞き、配布資料を参照したり、メモを取っていた。JICAボランティアの体験談やNGO相談員講話の際のコメント発言や疑問提起は認められなかったが、現地での課題解決の取り組み過程の説明に共感している様子が伺えた。個別相談には、ほぼ全員の参加者が予定を上回る1時間以上留まっていた。

・NGO相談員が応じた個別相談では、次の質問を受けた。

- JICAとNGOは、何がどのように違うのか。
- コミュニティ開発とは、具体的には何をする仕事なのか。
- 途上国でのNGO業務は、具体的には日々、何をするのか。

相談者の方は近々、英語圏にワーキングホリデービザで滞在する計画とのことだった。現地での生活や活動を通して、様々な選択肢

・専門性・可能性を探ってみては、と促した。

・所感

NGO相談員が応じた相談者の方によると、普段は国際協力について知る機会がほとんどないということだった。今後、NGO相談員の所属する団体のマルチタスク性も活かして、様々な切り口・入り口から国際協力のフィールドに飛び込んでもらえるよう間口を広げる試みが必要と感じた。

7 写真（カラーで2枚程度添付のこと）



国際協力を身近に感じてもらうため、NGO相談員のキャリア・パスを共有

（写真1）



個別相談時間の後も、ざくばらんな対話が続いた

（写真2）

以上